

# 学校にいけない・いかない子をもつ 親同士が「つながる」場

解決できる場ではないけれど  
それを目指す一端となることを  
願って開催しました。(事務局)

令和3年1月24日(日) 午後1時30分～3時開催報告

会場 地域交流古民家カフェ AGALA 2階

参加した方の言葉から当事者の思いをお届けします！

〇〇してしまう…

「ちゃんとせなあかんと言うてしまう」  
「言えば言うほど引きこもってしまう」  
「父親が言うと、直接的になってしまう」  
「ドアをバンッと閉めたら、怒ってしまう」

皆さんが通ってきた道のように、それぞれ共感しながらお話されていました。

学校に行けない、この事実は親御さんにとっては受け入れがたいことです。

「(子どもを)見ていたら怠けている感が目に入る。見てるのが辛い、不安で仕方ない。」  
親御さんがそんな風を感じていると、表情に出たり、夫婦間の言葉のかけ合いがきつくなったり、余計に子どもさんがしんどくなってしまい、子どもさんが自分を責めるようになってしまうこともあるようです。

「学校に行かなあかん。行かせないと！と思う気持ちから脱却するのが大変」

こうおっしゃる方もいれば、まだまだこの境地に至れない方もおられました。そうして、ついつい言っただめだと思ふ言葉を言ってしまう自分がいると話されていました。

親御さんもたくさん考え、本を読み、いろんなところに相談をかけています。そうして「お家にいてたい時はいてさせてあげる。無理やり行かしてもいいことない。受け止めてるよってことを(子どもに)どれだけ伝えるかを心掛けている」と思うようになった方もいました。

親御さん自身も心の中を見つめ、客観的に捉え直すことでどういう考え方をしていけばいいのか問い続けています。「子どもを一人前にするのが母親の仕事だと思い、そうだと学校へ行かさないのだめだと思えるのが母親の愛情であり、サガ、その子をすごく強く思っているから。だから父親をはじめいろんな人と話し、客観的になれるように(しないと)、放っておくと子どもへの愛が勝るから、共有するようにしている。」という方もいました。

病院ってどうなの？

病院を受診することについては  
意見はさまざまでした。

「病院に行けば何かしらの病名がつくし、それが嫌で行かない」とおっしゃり、病院にはつながっていない方もいました。

逆に、小さいころからの主治医に相談し、「学校へ行かなくていい」と何の準備もなく子どもさんに伝えられて親御さんの方が衝撃が走ったというお話もありました。

子どもさんと信頼関係のある主治医の言葉だったので、それを機に親子共に考え方を換え、「いろんな選択肢があると思う方が本人が楽になるのならいいか」と思うようになったそうです。

「うちはスマホ持たせてない」  
「持たせたくなかったんだけど…」

スマホどうしてる？

「つながっていないと不安という子が多すぎる。一人の時間が減っている。自分自身の中に深く潜っていくことも必要なこと」という意見の方もいれば、

「スマホをもってよかったのは、ゲームの中で友達とつながれる。(ゲームの中で)明日(学校へ)来るん？この話は明日学校でね」というやりとりから学校へ行けることもあるそうです。

皆さんが使用時間のルール化などをしていましたが、これは学校へ行っている子どもたちも同じですね。

不登校・引きこもり研究者の

◆ 川乗先生から ワンポイントアドバイス 岩手県立大学 社会福祉学部准教授

この会の記録を分析すると、単語の組み合わせで一番多いのは「言う」と「言う」の組み合わせ。「言う」内容がネガティブになれば子どもさんにもネガティブな影響が出るので、「言う」動作の前に5秒考えてから「言う」かどうか決めるということを取り入れてみてはどうでしょう。